

# あ　　る

O W L

Treasure every meeting as it's chance  
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 31

国境が幾度も引き直された樺太。  
先住者の樺太アイヌの人々は  
領土を主張する二国に翻弄され、  
悲劇的な運命を辿った。

## 樺太アイヌの北海道移住

明治八（一八七五）年五月、ロシアと国境を確定する樺太・千島交換条約が調印された。日本が千島列島の一八島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島を放棄するという条約であり、樺太はロシア領になった。

その際、先住民族である樺太アイヌの人々は、どちらの国につくか自由裁量にまかされた。その結果、樺太南部にいたアイヌの人々の多くは日本国民になることを決め、樺太と気候・地形の似た宗谷地方に住まわせてほしいと希望した。

しかし、開拓使長官の黒田清隆は、宗谷を「ノー」とし、石狩地方の内陸への移住を提示したため、北海道移住を決めた樺太アイヌの人々は困惑してしまっ

### 黒田対アツシ判官松本十郎

これに同情したのが、開拓使大判官の松本十郎だった。彼はアイヌ民族を公平に扱い、アイヌ住民からもらったというアツシ「アットウシロオヒヨウ」などの内皮繊維で織られたアイヌ民族の伝統衣服を大切に身に着けていたため、アイヌの人々から「アツシ判官」と称され敬意を払われていた。

そんな松本である。彼は樺太アイヌの人々を住み慣れた地に近い所に移住させ、本来の生業である漁業に従事させることを主張していた。しかし、黒田はこれを却下。二人は対立した。

黒田には開拓使から距離が近く指導しやすい石狩で、北海道の産業振興のための労

